

# 平成 30 年冬、万世大路「ニツ小屋隧道巨大氷柱」実見記

万世大路研究会（大滝会）

鹿摩貞男

## はじめに

1月14日（日）に旧国道13号（旧万世大路）<sup>ニツ小屋隧道</sup>の巨大氷柱を見学してきたので写真を中心として報告する。

今年の氷柱は、昨シーズンと比べると育ちが少し足りないようである。毎年状況は異なり我々の思慮の及ばぬ複雑なメカニズムによって生成されるようでその要因は不明である。今年の特徴としては、大きくならなかったことと関連するのであろうか、その透明度は高く綺麗な氷柱を見ることができた。

見学当日は好天に恵まれ気温も高かったようで、トンネル内では漏水が散見された。厳冬期に漏水を見たのは初めてのことである。

なお、本報告書の理解を助ける上で役に立つと思われる情報を「**参考資料**」として巻末に示したので参照されたい。

## 巨大氷柱写真集



写真-1① 旧国道13号、ニツ小屋隧道前。



写真-1② ニツ小屋隧道福島側坑口（L=384m）



写真-2 福島側氷柱群、米沢側を望む。



- 1 - 写真-3① 福島側(左)最初の氷柱群。



写真-3② 福島側(左)最初の氷柱群。



写真-4① 福島側(右)2番目の氷柱群。



写真-4② 福島側(右)2番目の氷柱群。



写真-4③ 2番目氷柱群から福島側坑口を望む。



写真-5① 福島側(右)から3番目氷柱群、氷柱落下。



写真-5② 福島側(右)から3番目氷柱群、氷柱落下。



写真-6① 中間部巨大氷柱群、米沢側を望む。



写真-6② 中間部巨大氷柱群、米沢側を望む。



写真-6③ 中間部巨大氷柱群、米沢側を望む。



写真-7① 中間部巨大氷柱群、福島側を望む。



写真-7② 中間部巨大氷柱群、福島側を望む。

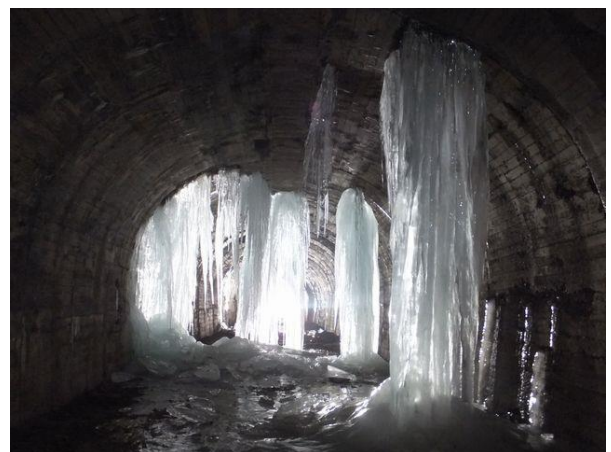


写真-7③ 中間部巨大氷柱群、福島側を望む。



写真-8① 巨大氷柱落下(米沢側)



写真-8② 巨大氷柱落下(米沢側)



写真-9① 米沢側坑口水柱群



写真-9② 米沢側坑口水柱群



写真-9③ 米沢側坑口水柱群(覆工崩落箇所)



写真-9④ 米沢側坑口水柱群、福島側を望む。



写真-10① 米沢側坑口



写真-10② 米沢側坑口



写真-10③ 米沢側坑口

## おわりに

朝 10 時過ぎに登山を開始し昼 1 時過ぎ駐車場に戻った。

当日の参加者は、案内人山口屋散人さん、矢内晴史さん市民の方 3 名、それに筆者の 6 名である。

## 【謝辞】

大滝会 HP 管理人紺野文英様にはいつものように編集作業をして頂き感謝申し上げます。  
また、現場案内の山口屋散人さんには冬山道具 1 式を借用しました。  
衷心から御礼申し上げます。

## 《ご注意》

本レポートは、当該「二ツ小屋隧道巨大氷柱」見学を一般の方々にお奨めするものではありません。冬期の二ツ小屋隧道に行くためには完全な冬山装備が必要であり、何よりも冬山登山の豊かな経験を持ち、かつ当該地形を知悉したガイドさんに案内して貰わないと行ける所ではありません。一步間違えば重大事故に繋がることとなり大変危険な場所なので、単独行動を取られることのないようにくれぐれも注意して下さい。

次頁に「**巻末参考資料**」を添付する。

## 《巻末参考資料》

以下に二ツ小屋隧道関連の参考資料を示しておいた。

### 【二ツ小屋隧道の概要】

この巨大氷柱の見られる二ツ小屋隧道の概要について簡単に紹介しておく。

(1) 二ツ小屋隧道は、旧国道 13 号のトンネルで福島市飯坂町中野<sup>ふたつこや</sup>地区に所在する。  
(二ツ小屋山標高 947.3m (四等三角点) に穿<sup>うが</sup>たれた。トンネル標高 694.4m)

(2) トンネル諸元等

構造：コンクリート巻立（壁や天井がコンクリート造）、路面：セメントコンクリート舗装  
延長：L=384m（既設隧道 6.4m 延伸）、車道幅員 W=6.0（全幅 6.5m）、  
高さ全高 H=5.1m（建築限界 4.5m）

トンネル縦断勾配：水平 横断勾配 1:40 (2.5%)

掘削時地質：新第 3 紀層の安山岩・玄武岩（覆工崩壊箇所柱状節理露出）・凝灰岩  
(湧水多し)

(3) 工事期間等

工事期間：昭和 8 年 5 月～昭和 9 年 12 月（舗装完まで、本体 3 月完成） 1 年 7 ヶ月間  
供用開始（一般車の通行開始）：昭和 12 年（1937 年）5 月

（昭和 41 年（1966 年）5 月栗子国道（栗子ハイウェイ）開通まで 30 年間使用）

(4) 本トンネルは、明治時代に建設された初代二ツ小屋隧道（荷牛馬車対応）を改修（拡幅）して自動車も通行出来るようにした 2 代目二ツ小屋隧道である。

### 【参考 初代二ツ小屋隧道について諸元等】

- ・延長:L=194.5 間 (353.6m) 昭和の大改修時点 (S8.5) L=377.4m (改修延伸、時期不明)  
幅員:W=3 間 (5.45m) 昭和の大改修時点 (S8.5) W=3.0m 内外  
高さ:H=2 間 (3.6m) 昭和の大改修時点 (S8.5) H=2.3m 内外
- ・工事期間等:明治 10 年 (1877 年) 10 月～明治 14 年 (1881 年) 9 月 (4 年間)  
供用開始 明治 14 年 10 月 3 日 (昭和の大改修 (S8.4～S12.3) まで 55 年間使用)  
(『福島県直轄国道改修史』より)

### 【参考サイトのご案内】

(1) 二ツ小屋隧道巨大氷柱について

とりわけ巨大な氷柱が出現した平成 23 年 2 月（「東日本大震災」1 ヶ月前）の状況については下記サイトを参照されたい。

本レポートは巨大氷柱の単なる見学記でなく、何故氷柱の発生するようなトンネルとなったのか「二ツ小屋隧道」の知られざる工事秘話等を紹介している。『探訪記』と称している所以でもある。

- 『平成 23 年冬・万世大路二ツ小屋隧道「巨大氷柱」探訪記』

<http://ootaki.xsrv.jp/html/page023.html>



(2) ニツ小屋隧道について

「ニツ小屋隧道」について興味のある向きには次のサイトを参照されたい。

- 『平成 26 年大滝会万世大路秋期探訪会報告』

<http://ootaki.xsrv.jp/26akitan2.pdf> (「その 2」 4 頁～)

- 『平成 26 年群馬県高崎市有志による万世大路探訪会報告』

<http://ootaki.xsrv.jp/takasaki-1.pdf> (「その 1」 11 頁～)

<http://ootaki.xsrv.jp/takasaki-2.pdf> (「その 2」 4 頁～)

- 『平成 27 年晩秋の万世大路を歩く』

<http://ootaki.xsrv.jp/27akiban-2.pdf> (「その 2」 1 頁～)

(3) 万世大路について

万世大路そのものについてお知りになりたい方は次のサイトを参照されたい。

本レポートは、万世大路の入門書として書かれたものである。

- 『万世大路読本』

<http://ootaki.xsrv.jp/banseiojidokuhon.html>

次頁に新聞(福島民友新聞)記事を掲載

2018年(平成30年)

1月16日(火曜日)

日曜11月30日 仏滅 九紫

## 福島民友

## 神秘氷の神殿

福島市と山形県米沢市にまたがる栗子峠の旧道「万世大路」に残るトンネル跡の一つ、二ツ小屋隧道に今年も巨大氷柱が現れた。高さ約5メートルの氷の柱が連なる様子は神秘的で、「氷の神殿」を思わせる。

毎年、同所を訪れている万世大路研究会代表代行の鹿摩貞夫さん

## 今年も万世大路

(72) 福島市 によると、氷柱は天井の割れ目から滴り落ちた水が凍ったもので、大きさは年によって異なる。今年はやや細めだが、透明感があって美しい。

現地は、国道13号東栗子トンネル付近からスノーシューを履いて徒歩で約1時間。雪深い斜面を登り、迷いやすいため、注意が必要。



旧道「万世大路」のトンネル跡に出現した巨大な氷柱＝福島市飯坂町・二ツ小屋隧道 (矢内靖史撮影)